

木元敏郎

# 数式 く れ た 宇宙 が

なぜ見るだけで視力が上がったり  
記憶力がアップしたりするの？

それは言葉に波動があるように  
数式にも波動があるからです

それも超実用的な！

量子波動効果を秘めた七つの数式

## まえがき

「宇宙がくれた数式」とは……？

そんなふうに興味（あるいはギモン）をもって、  
本書を手にとってくださいった方もいらっしゃるかと思います。

これは、わたしが「数字のならばかた」すなわち「数式」によって、  
さまざまに「エネルギーが発せられている」ことを導きだした記録を、  
一冊にまとめあげたものです。

一般的に、

「エネルギー」は目に見えなくて、  
「なんとなく感じる」だけの存在であり、

科学的には

「量子と呼ばれる／超微粒子エネルギー」

と表現されています。

「エネルギー」単体で見ることとはできないものの、  
「エネルギー」の数値を測定したり、  
「エネルギー」を水に入れたさいの結晶を撮影したり……といった、  
「見える化」の試みは、幅広く行われています。

(株) I. H. M. の江本勝会長は、

それらの活動をいち早く行なっておられた方で、

「量子レベルの微粒子が、

振動するエネルギーを『波動』と呼ぶ。

世のなかには、この『波動』で成りたっている」

と、表現しておられます。

わたしたち人間も、

いまご覧になっている本書も、

文字を記しているインクも、

そして地球そのもの……すべて、

「微粒子が／振動して」

表現した結果なのです。

江本会長の著書『「完全ベスト」水からの伝言』（ヒカルランド）にもあるとおり、

「波動が／水の結晶を変えた」写真は、あまりにも有名ですね。

二つのコップに水道水を入れて、

ひとつのコップには「ありがとう」、

もうひとつのコップには「ばかやろう」と書いた紙を、

それぞれ入れておきます。

そして、コップの水を凍こおらせた状態で、なかの結晶を見てみると……。

「ありがとう」と書いたほうは、きれいな六角形なのに、

「ばかやろう」と書いたほうは、グシャグシャでいびつな形をしています。

コップも、水もおなじもの、

なかに入れた紙の質や大きさもおなじ、

文字を書いたインクの量もほとんどおなじです。

それなのに、なぜ……このような違いちががおこるのでしょうか？

江本会長は、

「ことばの波動が、水の結晶を変えた」

と表現しています。

ことばや文字には、

「固有のエネルギー」があつて、その  
「固有のエネルギー」が、

水の結晶を変化させた……というわけですね。

これを受けてわたしは、

「ありがとう」という文字が、

「調和のとれたエネルギー」なのに対して、

「ばかやろう」という文字は、

「破壊<sup>はかい</sup>を促進するエネルギー」……なのだと、捉<sup>とら</sup>えました。

そして、

「ことば」だけでなく、

「数字」や

「記号」にも、

「エネルギーの調和」のとれた、

「蘇生<sup>そせい</sup>効果のある配列」が、存在するのでは……？

そんなふうには、思いあたったのです。

そして、みずから『オーリング・テスト』で実験をくり返しては、  
「目に見えないエネルギー」の、法則や傾向をさぐっていきました。

本書に掲載した「数式」は、

数千〜数万回、あるいは数億回（！）にわたる『オーリング』の結果、



「人体や物質に／調和のとれた」

影響がみられたものばかりをあつめた、いわば「魔法の数式」たちです。

そして、

『オーリング』のみならず「波動測定器」はどうそくていきをつかって、  
数式の「使用前／使用后」の変化を測定してもらって、  
エネルギーの変化を確認しました。

が、これらの数式をつかうにあたって、

「意味を考えた／計算をしたり」

むつかしく考える必要は、まったくありません。

ただボーンとリラックスしてながめたり、  
マジックで書きこんだりするだけで、

「調和／蘇生」を促す<sup>うなが</sup>効果があります。

「読書がニガテ」あるいは「時間がない」という方は、  
数式が記されたページをパラパラめくるだけでも、  
波動が変化しますので……どうぞ、お試しになってみてください。

すこしでも楽しんでいただけましたら、幸いです。

宇宙がくれた数式◎目次

まえがき Ⅰ

第1章 **オーリング・テストと波動測定**

オーリング・テスト 19

波動測定 35

第2章 タバコの害を減らす（免疫力をあげる）数式

体質が激変した 43

チャクラのカラーを入れかえた 45

第3章 電磁波をプラスエネルギーに変換する数式

電磁波だらけの生活 59

電磁波とは？ 63

「108」という数字 67

#### 第4章

右脳と左脳のバランスが良くなる数式

(ほろ酔い気分になりやすい)

百薬の長 77

お酒を飲む遺伝子のスイッチがオンになる 80

#### 第5章

頑固な観念を少なくしてくれる数式

(アホの式)

「アホの式」 91

「アホ」な自分を認める 94

他人を認める 98

アホのカン違い 100

アホの式の続き 102

## 第6章 喜怒哀楽がバランス良く起こりやすくなる数式

喜怒哀楽 109

脳波 114

低周波（シータ波、デルタ波）が足りない理由 119

自分らしさに気づけば、競争だけが目標ではなくなる 121

すべて必要 125

## 第7章 記憶力、洞察力が増す数式

記憶、予測とは？ 133

記憶のコツは、ファイルの整理 138

整理したら流れをつかむ 141

しっかり者ほど、認知症になりやすい？ 145

数式というより記号 151

## 第8章 視力を上げる数式

下がった視力は上がらない？ 159

回復した視力 163

視覚が敏感になるとオーラが見える

170

あとがき 177

あとがきの、あとがき 188



※数式の効果や体感には個人差がございます。  
ご了承くださいませ。

カバーデザイン 坂川栄治＋鳴田小夜子（坂川事務所）

扉ページ・ロゴデザイン takaokadesign

本文イラスト 木元敏郎

巻末＆扉裏イラスト yae works

校正 妻秋アートセンター

本文仮名書体 文麗仮名（キャップス）

第1章

オーリング・テストと波動測定

## オーリング・テスト

まずはじめに、「波動チェック」に用いる

『オーリング・テスト（略してオーリング）』

について、説明したいと思います。

『オーリング』とは、

ニューヨーク心臓病研究所の大村恵昭おむらよしあきさんによって開発されたテスト方法で、  
（おもに）指をつかって、カラダの反応をチェックしていきます。

たとえば……目のまえに、二つのグラスがあるとします。

一つには水が入っていて、  
もう一つにはアルコールが入っています。  
いま、自分のカラダはどちらを欲しているのか……？

こんなときに役立つのが『オーリング』です。

固定観念に従うと、

「アルコールよりは、水のほうがカラダに良い」とか、  
「アルコールは、控えなければならぬ」等の答えになるでしょう。

ところが、一概いちがいにそうとも言えなくて、  
カラダがアルコールを欲しているときだって（！）あるのです。

自分のカラダは、一体どちらを欲しているのか……？

それをたしかめる手段として『オーリング』は非常に有効なのです。

では、そのオーリングのやりかたですが、

まず、ふたり組のペアになって行ないます(図1)。

それから、親指ともう一本の指(図2。このばあいは、親指と人さし指)で、輪っかをつくって、

ペアの人に、この輪っかを「開かせるよう」外側へと引っぱってもらいます。

このとき「引っぱられる」側の人は「なるべく輪っかが開かないように」指にギュッとチカラを入れて、こらえるようにします。

そして、

チカラのはいりかた(輪っかの開きかた)が、

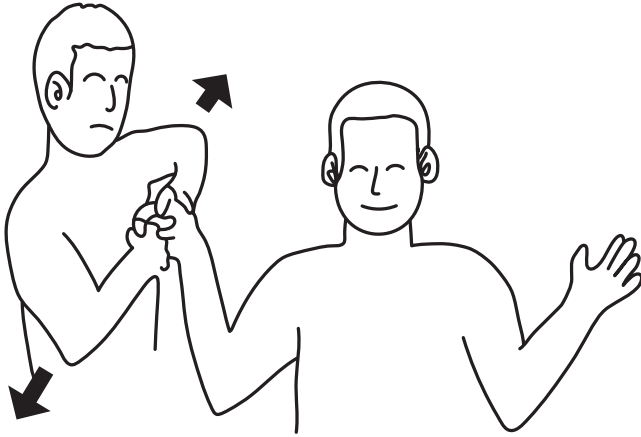


図1 オーリングテスト

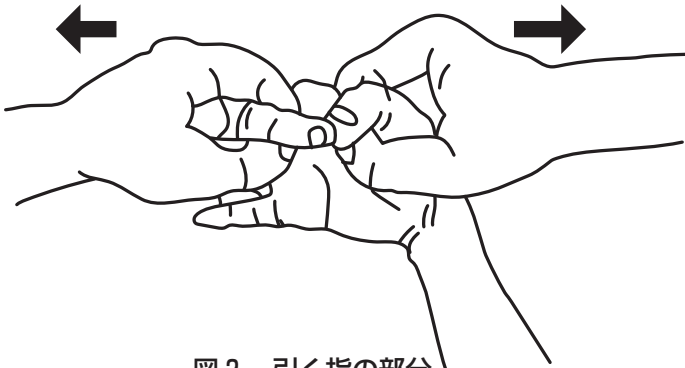


図2 引く指の部分

「どのくらいだったか」おぼえておきます。

つぎに、（オーリングの輪つかと反対側の手で）

水の入ったグラスを持って、同様に『オーリング』を行います（図3）。

そして、

「なにも持たないときよりも」チカラが入れば、カラダは水を欲しがっている。

「なにも持たないときよりも」チカラが入らなければ、水を欲しがっていない。

と、判定します。

アルコールがはいったグラスも、

おなじように『オーリング』でチェックしてみます（図4）。

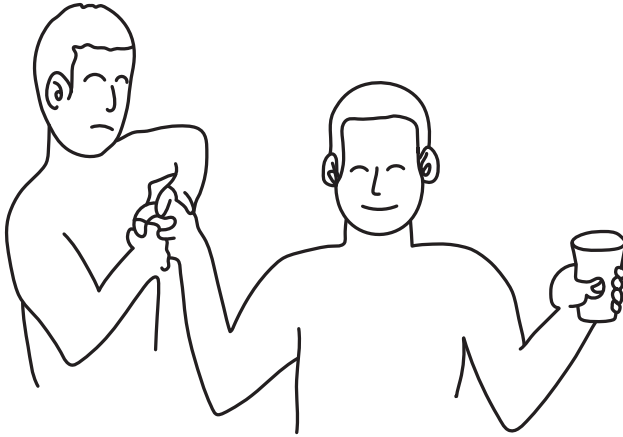


図3 水が入ったグラスを持って検査

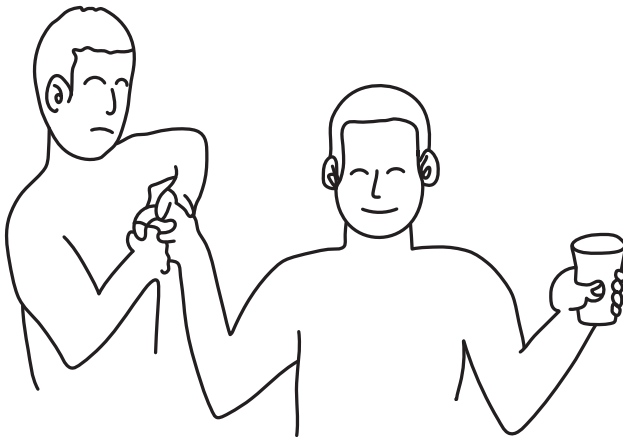


図4 アルコールが入ったグラスを持って検査



すると……判定結果は、以下の三つに分かれます。

- 一. 水とアルコール、どちらかにチカラが入る。
- 二. 水とアルコール、どちらにもチカラが入る。
- 三. 水とアルコール、どちらにもチカラが入らない。

この三つのうち「どれにあてはまるか？」を確認することで、「カラダはいま、なにを欲しているのか？」を判定できるのです。

この判定方法を『オーリング（・テスト）』と呼んでいます。

『オーリング』は「指で輪っかをつくる」だけでなく、

ウデや足などを使って測定することも可能です（図5、6）。

が、いずれのばあいも、

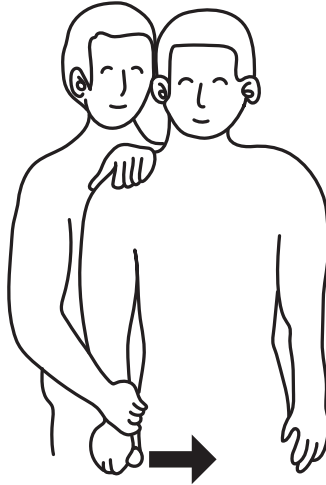


図5 腕の筋肉を使う

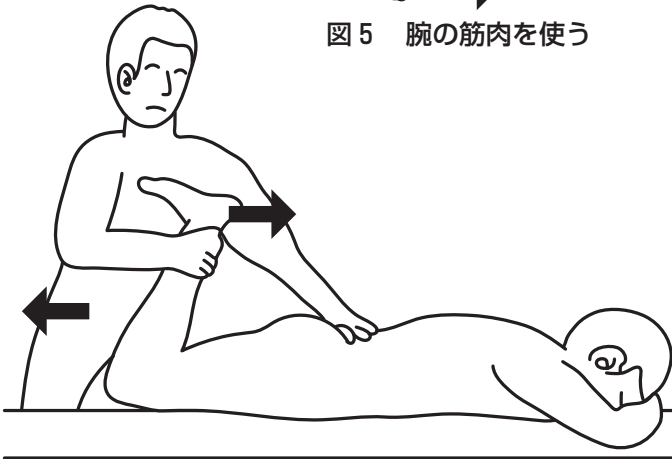


図6 足の筋肉を使う

「できるだけ、おなじ姿勢を保って行う」ことがポイントです。

姿勢が変わると「つかう筋肉」が変わってくるので、それによって「チカラが入ったり／入らなかったり」するからです。

そして、わたしのばあいは、

ひとりの時も『オーリング』を行えるようにしたかったので、

(ペアの代わりに) ハンドグリップで代用することにしました(図7)。

「二本の指」で

「ハンドグリップを閉じようとする」ときに、

「チカラが入るか／入らないか」を判定します(図8)。

そして、(ハンドグリップと) 反対側の手で、

いろいろな品を持つては「カラダが要求しているもの」を確認してみます。

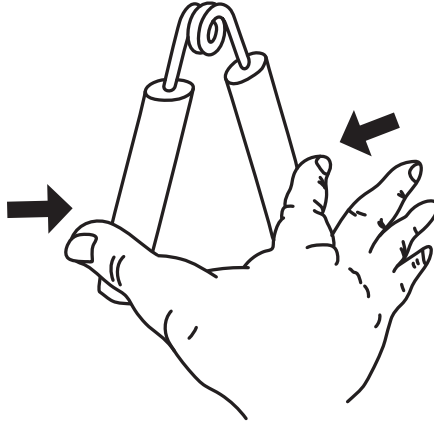


図7 ハンドグリップで行う  
オーリングテスト

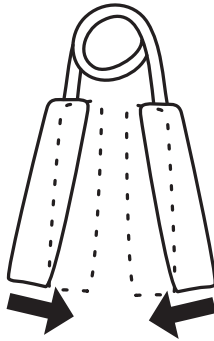


図8 ハンドグリップの縮み具合で  
力が入る入らないを検査する

ハンドグリップならば、

バネの強さが一定なので「いつでもどこでも」行えます。

はじめのうちは、指が疲れてくると、

「チカラが入っているのか／入っていないのか」

区別がつきにくくて戸惑うかもしれませんが、

慣れてくると、ほんの少しのチカラで判定可能になります。

さらに上達すると、

ハンドグリップなしでも『オーリング』できるようになってきます。

カラダ全体に（なんとなく）チカラがみなぎったり、

逆に、スーッとチカラが失せたり……。

反応が感じられるようになってくるのです。

また、訓練しただいでは、  
短時間に複数の『オーリング』をこなすことも可能です。

なんと、水やアルコールが入ったグラスにふれなくても（！）  
イメージするだけで、

カラダが欲するものをチェックできるようにもなります。

たとえば……。

目のまえに、お菓子があるとします。そして、

「いまから、このお菓子をひとつ食べる」

と、イメージします。

そのあと『オーリング』でチカラが入れば、

カラダが、

「お菓子を望んでいる」とわかり、チカラが入らなければ、  
「お菓子を望んでいない」とわかるのです。

そして、

「お菓子を二つ食べた。三つ食べた。四つ食べた……」

と、どんどんイメージをすすめていきます(図9)。  
そして、

「チカラが入らなくなる・ひとつ手前」



図 9

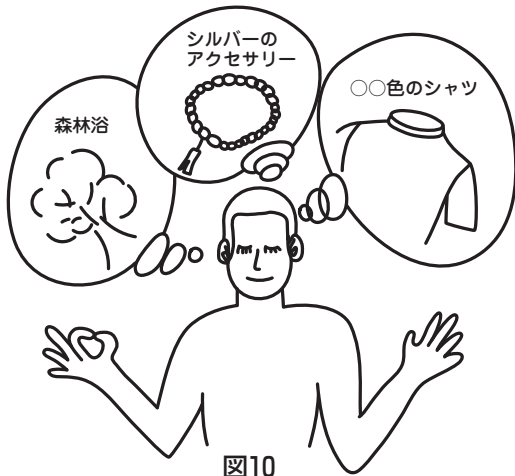


図10



が、カラダが要求している適量数と判定します。

これは食べものだけでなく、

飲みもの・衣類・小物……など、あらゆるものに応用できます (☒10)。

そして、それら「物質」を瞬時に『オーリング』できるようにになったら……。なんと、カラダが欲している「文字」をも (!) 判定できるようになります。

「ありがとう」

「ファイト」

「のんびり」

「最高」

「がんばろう」

……といったぐあいに、

その瞬間に「カラダが欲している／ことば」をみつけて、

イメージしたり眩つぶやいたりするだけで、

「必要な栄養を採とった」のと、おなじ作用がもたらされるのです。

これは「数字／色」にも応用できます。

このように、

『オーリング』をつかいこなせるようになれば、

「カラダに必要なエネルギー」を、

身近なものから取りこむことが可能なのです。